

最期まで住み慣れた地域で暮らし続けるために

平成 30 年 11 月 18 日(日)川崎市医師会館にて、160 名の参加者がつどい「川崎市在宅医療市民シンポジウム」が開催された。開催挨拶は川崎市医師会会長高橋章氏、川崎市地域包括ケア推進室室長宮脇護氏で、基調講演は秋山正子氏でした。シンポジウムは一人暮らしの事例を通して、在宅医師・訪問薬剤師・訪問看護師・ケアマネジャーの立場から意見交換を行った。全体ディスカッションでは、秋山正子氏も加わり、活発な意見交換が行われた。閉会挨拶は運営を担当した川崎市看護協会会長広瀬壽美子が行った。

《基調講演》 テーマ：最期まで住み慣れた地域で暮らし続けるために



＜秋山正子氏＞

- ・(株)ケアーズ白十字訪問看護ステーション統括所長
- ・暮らしの保健室室長
- ・NPO 法人マギーズ東京センター長

“暮らしの中で療養する人・家族を支えるケア”を目指して訪問看護活動に従事。その中で、もっと気軽に相談ができる場所が地域の中にあつたらという思いが強くなり「暮らしの保健室」を開設。そしてがん患者のための相談支援センター「マギーズ東京」を開設された経緯を紹介。地域包括ケアシステムの構築を進めるためには何が必要かを、実践活動を通して講演された。暮らしの中で療養することが「わがこと・まるごと」になっていくには、制度の情報発信や理解にとどまらず、助け合いの互助の仕組みをどう育てるか、また、一人暮らしの多い都会型の地域のきずなの再構築には工夫がいる！と実践の場面・事例を通して説明。講演の中で、高齢者が入院することで起こるデメリットもたくさんあるとして「ときどき入院、ほぼ

在宅」から一步進んで、「ほとんど在宅、たま～に入院」という地域ができれば、地域で暮らす安心感が増す。生活を支える介護との協働が不可欠。訪問看護をはじめとした在宅医療を上手に活用してほしいと話された。



《シンポジウム》 ～一人暮らしの事例を通して～

一人暮らしの方が、病気になり継続した医療が必要になっても、本人が望めば最期まで、住み慣れた地域・自宅での療養生活は可能であることを、事例を通してお伝えした。

訪問診療の医師や、訪問薬剤師、訪問看護師等が、介護サービスと一緒に“医療・介護のチーム”で一人暮らしの方を支えている。「自分がどうしたいかを元気なうちから意思表示し、家族や大切な人に伝え、書きとめておくことが大事」等の具体的な準備も紹介した。



《コーディネーター》

川崎市医師会理事 渡邊嘉行氏

《シンポジスト》

在宅医師の立場から 中岡 康氏

訪問薬剤師の立場から 宇井 敬氏

訪問看護師の立場から 小瀬 誠氏

ケアマネジャーの立場から 勝俣 栄子氏

《全体ディスカッション》

参加者からは、「事例のような状態になったらなるべく早く逝きたいがどうしたら良いか？」との問いに、秋山氏は「ギリギリまで自分で動く・食べる。自分の力で頑張っ

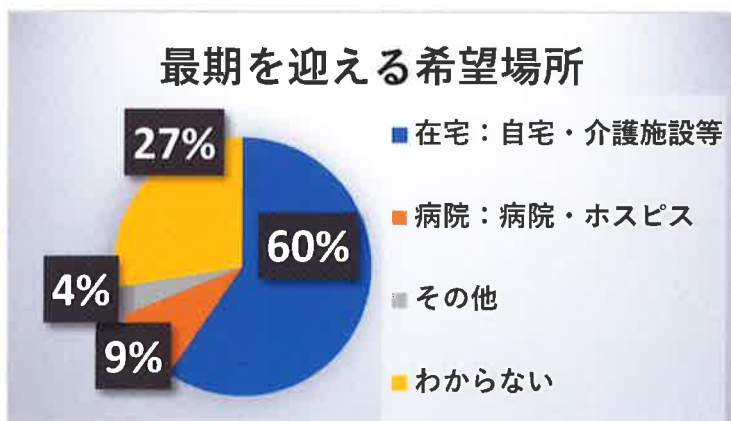


って生きようとする事でギリギリまで輝いて生きられる」「自分が訪問看護を始めた時の恩師のモットーは①自分の健康は自分で守る ②病気は家庭で治すものであった。在宅医療や介護が広まってきて少し②が浸透してきている。①が大事。“自分たちのできる事は自分たちで。支え合いましょう”と話された。

また、「口腔ケアの大切さについて」「連携について」「薬の多剤服用の問題」等について、参加された方々との活発な意見交換が行われた。

《アンケート結果》

アンケートに回答した 109 名(回答率: 68%)の内、43 名(40%)が市民。多くの医療・介護・福祉の関係職も集っての開催となった。20 代から 80 代と幅広い年代の方が参加。「今日の話は“最期まで住み慣れた地域で暮らし続けるために”を考えるきっかけになりましたか」の設問には 92%の方が「はい」と回答。最期を迎えるのに希望する場所について在宅となる「自宅・介護施設等」が 60%、「病院・ホスピス」が 9%であった。



参加者から寄せられた感想・意見

【市民】 ・一人で自宅にいて最期を迎えるのに心配な事があったが、今日いろいろな事を理解したら、心配なく迎えられると希望が湧いた。

・自分の終わり方について考えさせられ、大変参考になった。特に自分の意志表示をしておくことが大切と思った。

- ・予備知識を何回にも分けて聞くと、次第に納得するし準備をすることが出来る。
- ・がんは末期でも人生は末期ではないの言葉に感動。

【専門職】 ・療養病棟に勤務。多くの方が医療処置があり急性期病院から紹介されてくるが、本当にこの形を患者さんが望んでいるのか。在宅へつなげる方を一人でも多くできないかと葛藤。参加してよかった。

- ・相手の良さを引き出す為、相手の土俵に入って、これからも支えになりたいと思った。

《編集後記》

平成 26 年からの開催で 5 回目の開催となりました。広瀬会長から「今日の話地域に・家庭に持ち帰り話し合い、行動を起こしていきましょう」と参加者へ呼びかけ終了しました。皆で前進！！



秋山先生を囲んで運営役員

《運営・問い合わせ》

公益社団法人川崎市看護協会
〒211-0067
川崎市中原区今井上町 1-34 3F
TEL : 044-711-3995
FAX : 044-711-5103
メール: mail@kawa-kango.jp